



表紙／福島県相馬市・みなと保育園の園児たち
裏表紙／④岩手県大槌町「大槌まつり」鹿子踊
＝2019年9月21日(大槌新聞提供)、⑤岩手県
陸前高田市「奇跡の一本松」、⑥三陸鉄道の全線
復旧を岩泉小本駅(岩手県)で祝う住民＝2014年
4月6日(岩手日報提供)、⑦津波襲来の時刻で
止まったままの時計(宮城県仙台市・旧荒浜
小学校)



未来に向かって

—— 東日本大震災10年の記録 ——

特定非営利活動法人 難民を助ける会 (AAR Japan)

 **0120-786-746** (平日10:00~18:00)

〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2 ミズホビル7階

FAX: 03-5423-4450 E-mail: info@aarjapan.gr.jp <https://www.aarjapan.gr.jp/>

2021年3月11日発行

 **AAR Japan**
Association for Aid and Relief, Japan
認定NPO法人 難民を助ける会

あの時あの場所で AARの支援活動

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方など広い範囲に未曾有の被害をもたらしました。難民を助ける会(AAR Japan)は発生直後の緊急支援から復旧・復興期の中長期的支援まで、岩手・宮城・福島3県を中心に今も被災地で活動を続けています。



緊急支援の炊き出し 73カ所



緊急支援物資の配付 1,606カ所

撮影:川畑嘉文

体験型イベント「西会津ワクワク子ども塾」の開催 (福島県西会津町)

原発事故による放射線の影響で外遊びの機会が減った福島県東部の子どもたち。ストレスや運動不足を解消するための親子の体験型イベント「西会津ワクワク子ども塾」を2012年に開始しました。これまでに29回開催され、同県相馬・双葉地域の親子が野外活動や料理などを楽しみ、西会津の皆さんと交流しました。(2012年～)



子どものための遊具や図書スペース設置 (岩手県、宮城県、福島県)

子どもたちが狭い仮設住宅内で抱えるストレスを分散し、運動不足を解消できるように、仮設住宅の敷地に遊具を設置しました。また、放射線の影響で屋外活動が制限された子どもたちのために、障がい児施設・幼稚園に滑り台などの室内遊具や図書スペースを設けました。その数は112カ所に上ります。(2011年～2016年)



障がい福祉施設の修繕・再建支援／備品の提供 (岩手県、宮城県、福島県)

障がい者や高齢者がさまざまな活動や作業を通じて社会参画し、自立した生活を送れるように、損壊した福祉施設の建物の修繕、備品の提供などの支援を実施しました。岩手・宮城・福島3県でのべ85施設の建物を修繕し、175施設に什器備品を提供しました。(2011年～)



障がい福祉事業所の商品開発・販路開拓支援 (岩手県、宮城県、福島県)

AARの調理器具提供やPR支援、日清製粉グループの技術指導によって、福島県内の13の福祉事業所が共同で焼き菓子「ぼろぼろん」を完成させました。菓子製造や箱折り、販売活動など各事業所の強みを生かしながら、製造・販売しています。AARは岩手・宮城・福島3県でのべ73の福祉事業所の商品開発と販路開拓を支援しました。(2012年～)

岩手県

宮城県

福島県

福祉作業所の再建／商品開発・販路拡大支援 (岩手県大船渡市)

福祉作業所「@かたつむり」は津波で活動拠点を失い、AARの支援で2017年に新しい事業所が建設されました。大船渡が全国有数の水揚げ量を誇るサンマ、作業所で自家栽培するミニトマトを組み合わせた「トマさんソース」(缶詰)がAARの商品開発支援で完成し、盛岡市の地元百貨店で販売される人気商品になったほか、「岩手県ふるさと食品コンクール」で優秀賞などを受賞しました。(2017年～)



撮影:川畑嘉文

巡回診療・保健活動 (宮城県石巻市)

宮城県牡鹿半島で地元医師と連携を図り、在宅避難者宅や避難所を訪問して、巡回診療と慢性疾患の診察、感染症の予防、精神的なサポートなどの保健活動を行いました。医療機関が再開して移動手段が確保されるまでの半年間、のべ817人を診療・訪問して被災地の医療を支えました。(2011年)

被災者の交流促進「地域みんなで元気になるう」プロジェクト (岩手県、宮城県、福島県)

被災者の孤立やストレス、体調不良を防ぐことを目的に、マッサージやリハビリ指導、傾聴活動、手工芸教室、菜園活動などを実施。宮城県と岩手県沿岸部の仮設住宅で始まった取り組みは、福島県にも活動の場を広げて、帰還後も続いています。これまでに997回開催しました。(2011年～)



福祉事業所の弁当・カフェメニュー開発支援 (岩手県、宮城県、福島県)

弁当の製造・販売やカフェ運営に取り組む福祉事業所が、より魅力あるメニューを提供できるように、料理研究家、浜内千波さんの指導のもと、メニュー開発支援と調理実習を行いました。岩手・宮城・福島3県の各事業所が商品化に向けて努力を重ね、地元の食材を使ったお弁当は今も好評です。(2014年～)



東日本大震災 10年間の出来事
(赤字はAAR Japanの活動)

2011年3月11日	三陸沖でマグニチュード9.0の地震発生(午後2時46分18秒)、東北から関東地方の太平洋沿岸に大津波が襲来
3月12日	東京電力福島第一原子力発電所(福島県大熊町・双葉町)1号機で水素爆発発生
3月13日	AARの緊急支援チームが東京を出発
3月14日	AAR仙台事務所開設
3月14日	東電福島第一原発3号機の原子炉建屋付近で水素爆発発生、東電が初の計画停電 避難所で緊急支援物資配付を開始(宮城県)
3月15日	東電福島第一原発4号機で火災発生
3月16日	障がい福祉施設で緊急支援物資配付を開始(宮城県)
3月19日	巡回診療・保健活動を開始(宮城県) 岩手県陸前高田市で最初の仮設住宅が着工
3月31日	AAR盛岡事務所開設／避難所などで炊き出し開始(宮城県)
4月 1日	AAR福島事務所開設
4月 9日	「被災地へ温泉を運ぼう」プロジェクト開始(宮城県)
4月22日	東電力福島第一原発の半径20キロ圏内を「警戒区域」に指定
6月24日	政府が東日本大震災復興基本法施行
7月 9日	「地域みんなで元気になるう」プロジェクトを開始(宮城県、岩手県)
2012年2月10日	復興庁が発足
7月22日～23日	「西会津ワクワク子ども塾」を初開催(福島県)
12月10日	警戒区域を解除
2013年7月	宮城県で仮設住宅の解体作業が始まる
2014年4月 6日	三陸鉄道が全線開通
2015年3月15日～16日	仙台市で「第3回国連防災世界会議」 「防災イベント in SOMA」を開催(福島県相馬市)
2020年3月14日	JR常磐線が全線開通
2021年3月11日	東日本大震災10年

私たちがめざしたこと

2011年3月11日午後2時46分。AAR Japanが入る東京都品川区のビルが大きく揺れました。テレビ画面から被災地の状況が断片的に流れる中、すぐに緊急支援のための現地派遣が決まりました。13日早朝に東京を出発し、同日深夜に宮城県多賀城市に到着すると、オンラインで予約したホテルは津波で流失しており、辺りは未だ火災の収まっていないところもありました。暗闇に規制線が張られ、鼻をつくような異臭が立ち込めていたことを今も鮮明に思い出します。あの日から10年間、私たちAARは6つのことを目指してきました。

①必要な支援を迅速に行うこと

3月14日に宮城県庁の障害福祉課を訪ねると、県内約200の障がい福祉施設と連絡を取ろうとしても電話がつながらず、必要な物資の確認どころか安否確認さえままならない状況であることを聞きました。以来、私たちは「御用聞き」になることに徹しつつ、一つひとつの要望に沿った支援を迅速にできるように心掛けてきました。緊急段階には約18万人に食料や緊急支援物資を届け、復旧段階では約60の障がい者・高齢者施設に対して全・半壊した建物の修繕工事などを行いました。相手のニーズに合わせて迅速にという基本姿勢は、被災地の状況が刻々と変化する中で、現在に至るまで変わっていません。

②誰も取り残さないこと

東日本大震災では、障がい者の死亡率(2.06%)が全体の死亡率(1.03%)の2倍に上りました。命は助かっても通っていた障がい福祉施設が倒壊し、避難所にも入れないまま、行き場を失った方もたくさんおられました。AARが被災3県の障がい者支援に注力したのは、こうした状況を踏まえてのことです。加えて、福島県では原発事故の影響もあって、十分な支援物資が届いていませんでした。そのため当会是他団体とも協力して、同県内全市町村の仮設住居に生活必需品を届けました。また復興期には、多くの方々が公営住宅などに引っ越す中で、高齢者を中心に経済的な理由などで仮設住宅に残らざるを得ない方たちもいました。私たちは取り残される人が出ないように、仮設住宅での傾聴やリハビリなどの活動を地道に行いました。

③希望につながる支援を行うこと

被災地支援とは物を配ることだけではありません。例えば、AARでは障がい者の福祉作業所や施設での仕事づくりや事業再開・創出

AAR支援事業部マネージャー(元東北事務所長) 野際 紗綾子

のお手伝いをしてきました。福島の13の福祉作業所が協働で商品開発した「魔法のお菓子 ほるぼろん」はその成果のひとつです。他にもさまざまな施設で、皆さんと協力しながら、経済的自立につながる魅力ある商品づくりや事業の生産性向上を進めてきました。このような支援を通じて、被災した障がい者の方々が失われかけていた希望や自信を取り戻し、やりがいと喜びを持って仕事に励めるようになることが大切だと考えています。

④地域のつながりを取り戻すこと

被災した地域にはもともと豊かな人間関係がありました。ところが、住み慣れた地域から避難所、仮設住宅、復興公営住宅へと移転が繰り返されるたびに、築かれた人間関係は断ち切れ、孤立が懸念される人が増えました。とりわけ福島では、今も遠方に避難している方、帰郷しても放射線への不安や近所の方が戻らないことから孤独にさいなまれている方もいます。そこでAARは新旧住民の交流、広域避難者同士の交流を促進するイベントの支援を積極的に行ってきました。新型コロナウィルスの感染が拡大した2020年も、参加者間で距離を保ちながら参加できる健康体操教室を開くなど、みんなで知恵を出し合い、工夫しながら活動を続けています。

⑤子どもの成長を支えること

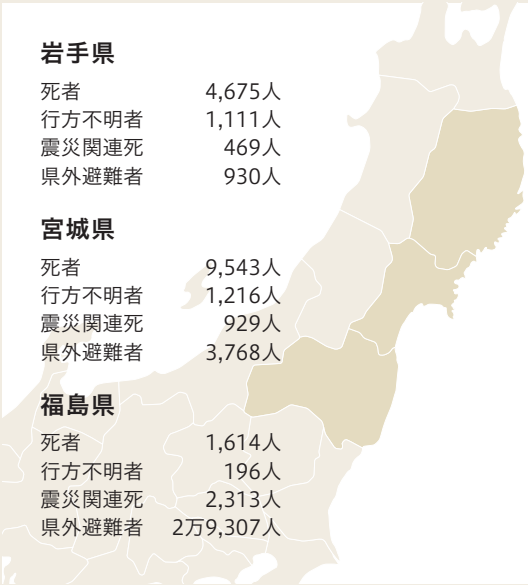
子どもは社会にとっての希望ですが、震災の影響をとりわけ受けやすい存在でもあります。AARでは、子どもたちの健やかな成長を支える活動を東日本大震災の支援活動の柱のひとつにしています。例えば、屋外で遊ぶ機会が少なくなっていた福島県東部の子どもたちと保護者が一緒にさまざまな自然体験を楽しめる機会を、毎年提供してきました。さらに、保育園や幼稚園で遊具や図書館の拡充を支援したり、安全な飲料水を届ける活動も行っています。

⑥すべての人に優しく、災害に強い社会をつくること

以上の支援活動を通じて見てきた震災の教訓を、今後の社会づくりにつなげるべく、私たちは国内外で提言や発信を行ってきました。震災の被害・影響を受けやすいのは障がい者、高齢者、子どもですが、それは平時から弱い立場に置かれている人々です。すべての人に優しい社会をつくるのが、同時に災害に強い社会をつくることでもある——この観点を大切にしながら、今後も皆さまとともに支援活動を続けていきたいと考えています。

東日本大震災の被害
(警察庁・復興庁などによる)

死者	1万5,899人
行方不明者	2,527人
震災関連死	3,767人
負傷者	6,157人
全国の避難者数	約4万2,000人 (2020年12月時点)



被害総額 約16兆9,000億円(内閣府推計)



撮影：川畑嘉文

AARの福祉施設支援件数
(2011～2020年度)

障がい者・高齢者施設の修繕・建設	86件
岩手県	26件
宮城県	50件
福島県	10件
資機材の提供	159件
岩手県	60件
宮城県	54件
福島県	45件
福祉車両(送迎用など)の提供(3県)	59台
福祉作業所の商品開発・販路拡大(3県)	73件

取り戻した笑顔、前に進むチカラ

AAR Japanは10年間、被災地の多くの方々とともに復興に向けて歩んできました。
岩手・宮城・福島3県の皆さんの声をご紹介します。



「かっこよく働く」場所を創出

岩手県田野畑村 ハックの家

施設長 竹下 敦子さん

パン製造販売担当 障子上 喜一さん

太平洋に面した田野畑村は津波で壊滅的な被害を受けました。障がい者の皆さんが働く水産加工工場も流されましたが、その日たまたま早仕舞いしていて全員無事だったのは不幸中の幸いでした。帰宅できなくなった利用者と職員、近所の方々など約40人が高台に残った施設でしばらくの間過ごしました。障子上君をはじめ水産加工メンバーを含む約20人の就労場所を再建する必要に迫られていた時、AARから支援があって、年末にパン工場と野菜加工工場が完成しました。この先どうなるのか不安に押しつぶされそうになっていた私たち職員と利用者、家族の皆さんにとって、それは未来が見えた瞬間でした。

現在は障がい児の放課後デイサービスを含む約40人が通っていますが、10年経った今もあの時のトラウマで家に引きこもったままの利用者もいて、震災は続いていると感じます。その一方、2021年春にオープンする地元の道の駅で、うちのパンが販売されるなど新たな可能性も広がっています。多くの方々にご支援いただきながら、障がい者がかっこよく働き、かっこよく生きる場所として、ハックの家を発展させていきたいですね。(竹下さん)

地域で生きる障がい者を支える

岩手県奥州市
ひまわり会すてっぷ施設長

小山 貴さん

知的・精神障がいがある20人余りが菓子製造、機械部品の受託加工、紙資源の回収・リサイクルなどに取り組んでいます。震災直後は食料やガソリンの流通が止まり、一部の利用者さんと施設に住み込んで8日間過ごしました。本震・余震で外壁が壊れて困っていた時、迅速に改修してくれたのがAARです。原発事故の風評被害が岩手県にも広がり、地元産米で作る餅菓子の安全性の証明が必要になった際には、放射線測定器を提供してもらいました。今、何を必要としているのか話を聞いて一緒に考え、こちらが求めた以上の答えを示してくれるので、AARは安心して何でも相談できるパートナーのような存在ですね。

被災地の復興と言っても、障がい福祉の視点で見ると、この10年間で何が変わったわけではなく、大震災をきっかけとして社会的に弱い立場にある障がい者の問題が顕在化したという気がします。障がいのある方々が地域で生きるという当たり前の営みを支えるために、まだまだ多くの課題に向き合っていかなければならないと考えています。



良いものを丁寧に 作り続けたい

岩手県大船渡市
障がい福祉事業所@かたつむり

創設者 吉田 富美子さん

施設長 大西 智史さん



知的障がい者が働く事業所として法人化の準備を進めていた最中、震災時の津波で港の近くにあった活動拠点を失い、一時は解散を考えました。それでも頑張ってプレハブの作業場で再スタートしたところ、今度はその場所が復興計画の浸水想定区域に指定され、移転費用もなく困り切ってAARに相談したんですよ。多額の資金を調達してくれて、2017年に立派な事業所が完成した時は、みんな大喜びでした。自分たちで栽培したトマトの規格外品と大船渡のサンマを使って何か作ろうと、AARと試作を重ねて共同開発した「トマさんソース」は、今では盛岡の百貨店や東京のアンテナショップで販売される人気商品に成長しました。AARの皆さんは私たちの痛みを分かって、困った時は必ず助けてくれましたね。

震災から10年を経た今、主に10～20歳代のメンバー約40人が元気に通ってきて、食品加工や農作業、電気部品組み立て、キッチンカーでの昼食出張販売などに取り組んでいます。みんなの努力が実を結び、震災直後のことを思うと夢のようです。これからも根気強く丁寧な仕事を心掛けて、良いものを一つひとつ大切に手作りしていきたいと思っています。(吉田さん)

震災の記憶を忘れないように

宮城県仙台市
フリースペースソレイユ施設長

菅井 明里さん



あの日の津波は隣接する仙台市若林区や名取市^{ゆりあげ}を飲み込み、数キロ内陸にある施設の近くまで押し寄せました。自宅を失った利用者や職員もいます。知的障がいのある利用者を連れて避難所に行ったものの、寒さの中で毛布が4人に1枚しかなく、余震が起きる度に泣いたり叫んだりするので、周囲の目が気になって翌朝5時に施設に戻りました。弁当の製造販売をしている関係でコメなどの食料があり、それから2週間は共同生活でしたね。

老朽化していた建物や設備が損壊し、再建を図ろうにも地元業者は手が回らず、資機材が非常に高騰して途方に暮れていた時、AARから業務用大型冷蔵庫が届いて、幸い2カ月後に業務を再開することができました。今は弁当製造やグループホームのほかに「田んぼカフェ」を運営し、約40人が働く場所を確保しています。すぐ近くの閑上地区を見ても住民が戻って来ないなど、とても復興したと言える状況ではありません。震災の経験を忘れないように、毎年3月11日にはみんなで献花して手を合わせます。障がい福祉施設の危機管理の点で学んだことも多く、それを後世にしっかりと伝えていきたいと考えています。



障がい者のセーフティネット構築

宮城県気仙沼市 ワークショップひまわり

理事長 **馬場 康彦**さん

施設長 **伊藤 純子**さん

知的・精神障がいのある28人が洋菓子やパン製造、野菜や海産物の袋詰め作業など地域に密着した仕事に取り組んでいます。新築したばかりだった工場が震災時の火災で焼失し、職員の半数が自宅や家族を失う中、無事だった施設が福祉避難所になって約40人が集まりました。川の水を汲み、拾い集めたマキでお湯を沸かして顔を洗ったり、菓子やパンの生地を焚火で焼いて食べたり、皆で助け合って極限状態を必死に乗り切りました。

AARにパンの製造・販売所、生地製造機を提供していただき、注文が増えて運営が軌道に戻ったのは3年後だったのでしょうか。AARの方が持ってきてくれたトトロの縫いぐるみは利用者や母親たちを笑顔にし、10年経った今もちゃんと残っていて、何もかも失った当時の私たちが前に進む力をもらったように感じています。他方で旧来のコミュニティのきずなが崩壊し、障がい者が安心して暮らせる環境は再構築できていません。菓子やパン作りを通じて多くの人に私たちの存在を知ってもらい、ひまわりをひとつの旗印として、障がい者のセーフティネットを地域と社会に広げていかなければと決意を新たにしています。(伊藤さん)

園児たち励ました縫いぐるみ

福島県相馬市
みなと保育園園長

和田 信寿さん



大地震が起きた時、太平洋の松川浦に面した当園の建物は無事だったものの、直後に津波が迫っていました。当時194人いた園児の大半は保護者が急いで迎えにきましたが、勤務先が遠くて間に合わなかった約40人は、職員の誘導で脚立を使って園舎の屋根の上に避難し、園庭のすぐ手前まで海水が押し寄せるのを茫然と見守るしかありませんでした。相馬市内だけで犠牲者は約450人に上り、家族を失った園児や職員もいます。

保護者の要望もあって、震災後の混乱が続く中で園を再開しましたが、その頃にAARから届いた大量のクマの縫いぐるみに園児たちは目を輝かせ、私たち職員も救われる思いでした。放射線が心配で子どもたちに水道水を飲ませられず、ミネラルウォーターを7年間提供してもらったのも助かりました。2019年10月の台風19号で系列の保育園が被害を受けて、AARに助けを求めたところ、すぐに消毒液などを届けてくれました。ご縁が続いていることに感謝しています。今は震災後に生まれた園児ばかりになりましたが、防災標語を毎日唱和し、地震・津波の避難訓練を月1回実施して、命を守る大切さを教えています。

娘の健やかな成長を願って

福島県南相馬市
「西会津ワクワク子ども塾」参加者

横山 一徳さん・**明美**さん・**碧乙**さん



震災に遭ったのは長女の碧乙が生後4カ月の時です。いわき市の実家に里帰り中だった妻の明美とは何とか携帯電話がつながって互いの無事を確認しましたが、勤務先から家に戻ると部屋は減茶減茶でした。翌日、福島第一原発で水素爆発が起きて、明美と碧乙は会津若松の親せき宅に避難し、地元の消防団員だった私は4日間、津波で壊滅した海沿いの地区で捜索・救助活動に加わりました。お年寄りのご遺体が多かったのを覚えています。

その後2年間は仕事の都合で別居を強いられ、私は週末に相馬市内の実家から会津若松に通いました。病院勤務の傍ら子育てしてくれた妻は「無我夢中だったので当時の記憶がない」と言います。放射線の影響が心配で、幼い娘に飲ませる水や食べ物にも気を遣いました。

親子3人で相馬に戻った2014年、AARの「西会津ワクワク子ども塾」を知り、娘を外で思い切り遊ばせてやりたいと参加しました。その後も毎年参加していますが、碧乙はソバ打ち教室がお気に入り、新しい友だちもできたようです。その碧乙も小学4年生になりました。私たちにとって、子ども塾は娘の成長を支えてくれた最高のイベントです。(一徳さん)

旧避難区域の再興を目指す

福島県川俣町
山木屋公民館副館長

廣野 太さん



山木屋地区は農業と酪農が盛んで、自然の恵みも豊かな山間の集落でしたが、原発事故で何もかも一変してしまいました。避難指示区域に指定されて、1,200人余りの住民全員が退避し、そのうち約200世帯350人は町内の農村広場と町体育館の仮設住宅に移りました。仮設住宅の自治会長として行政との調整や困りごと相談などに追われていた頃、AARが「地域みんなで元気になるう」プロジェクトで高齢者のマッサージや茶話会を始めてくれて、特に木製プランターを使った野菜や花の栽培は、ストレスを抱えた避難者の大きな楽しみだったねえ。3年前に帰還が始まって以降も、AARは山木屋公民館などで活動を続けてくれました。

10年経った今、山木屋に戻ったのは高齢者を中心にかつての4分の1に留まります。住民がバラバラになり、先祖代々受け継がれてきた営みが途切れてしまった悔しさはありますが、地域の再興を目指してNPOを設立し、桜の木を植えたり食堂を始めたりしています。若手農家が特産のアンズリウムやトルコギキョウの花弁栽培に取り組んでいるのも心強いね。これから先の山木屋を考えていくのが、今の私たちの役割なのかなと思います。

心をつないだ10年間



「夢中になって作品を作ると気持ちがほぐれる」。仮設住宅や集会所で実施する茶話会や手工芸教室を通じて、避難者や帰還者の孤立を防いできました(2016年7月、福島県南相馬市)



被災者のためのチャリティショーに出演した歌舞伎役者の中村梅玉さん(2011年9月、東京都新宿区)



岩手・宮城・福島3県と東京都でチャリティコンサートを実施したヴァイオリニストの天満敦子さん(2013年3月、岩手県陸前高田市)



福祉事業所で販売する弁当の開発に向けて、調理指導する料理研究家の浜内千波さん(2014年7月、福島県郡山市)



のべ110カ所以上の仮設住宅や福祉施設を訪問し、講演を行った演芸家の四代目江戸家猫八さん(2013年1月、宮城県女川町)



ケネディ駐日米国大使(当時)が福祉事業所「アクセスホームさくら」を訪問。利用者による自動車部品の組み立て作業やお菓子づくりの様子を視察しました(2016年6月、福島県二本松市)



外遊びの機会が限られる福島の子どもたちに楽しんでもらおうと、絵本の読み聞かせイベントを実施しました(2012年2月、福島県郡山市)



被災者のためのチャリティコンサートを18回開催しました。コンサートの純益は学校への楽器の寄贈、福祉施設の再建支援などに活用しました(2011年8月、宮城県仙台市)

障がい福祉事業所を訪れて交流するギタリストの村治佳織さん(2016年2月、岩手県大船渡市)



企業の皆さまとの協働

東日本大震災の被災地支援には、国内外の約650の企業・団体から多大なご寄付・助成金が寄せられたほか、さまざまな形でご協力いただきました。AAR Japanと企業の皆さまの協働の事例をご紹介します。

※P14～15にご支援いただいた企業・団体を掲載しています



■ イオンワンパーセントクラブ 「障がい者ものづくり応援募金」事業

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ(千葉市)は、震災発生直後から緊急募金を呼び掛け、全国のイオングループの店舗などに寄せられた募金に一定額を上乗せるマッチング寄付として、緊急期から復旧期のAARの支援活動を応援してくださいました。これによって緊急支援物資の配付、障がい福祉施設の修繕や車両の提供、地元商店向けの店舗用コンテナハウスの設置などが実現しました。

その後も全国の店舗・事業所の募金箱に集まった寄付を基にした「障がい者ものづくり応援募金」を通じて、東北3県の障がい者が働く共同作業所・福祉施設への資機材の提供や商品開発の協力など、AARの障がい者支援をサポートしていただきました。支援を受けた福祉施設ではヒット商品も生まれ、「自分たちでは購入できない高性能の設備を提供してもらって、とてもありがたかった」と感謝の声が聞かれました。



■ 住友財団 「西会津ワクワク子ども塾」事業

公益社団法人住友財団(東京都)は2012年以降、原発事故による放射線の影響を受けて、屋外活動を制限された福島県東部の相馬・双葉地域の子どもたちに自然の中でのびのび遊んでもらおうと、AARが同県西部の西会津町で始めた「西会津ワクワク子ども塾」事業を助成していただいています。子ども塾にはリピーターを含めて毎年たくさんの親子が参加し、今では西会津の親子が相馬エリアを訪問するなど、県内の地域間交流イベントに発展したほか、震災後に生まれた世代に災害の記憶をつなぐ学びの場にもなっています。

また、住友財団は震災直後から生活用品の緊急配付、学校給食センターの食器提供、仮設住宅の衣類乾燥機の提供など、現場のニーズに応える支援を後押ししてくださいました。



■ 日本ロレックス 障がい福祉施設の修繕／チャリティコンサート

日本ロレックス株式会社(東京都)は2012年以降、「東日本大震災復興支援のためのチャリティコンサート」に6回ご協賛いただいたほか、津波で活動拠点を失った岩手県大船渡市の障がい者福祉作業所「@かたつむり」の事業所建設に多大な寄付をお寄せくださいました。国内外の著名な演奏家を招いてサントリーホールなどで開催したコンサートは、美智子皇后陛下(当時)にご臨席いただき、多くの方々に支援の輪を広げました。

2017年に完成した「@かたつむり」事業所では、知的障がいのある利用者の皆さんが食品加工に取り組み、AARと共同開発した「トマさんソース」がヒット商品になるなど、被災地における障がい者支援の成功モデルのひとつになっています。

感謝と敬意を込めて



難民を助ける会 理事長
長 有紀枝
Osa Yukie

東日本大震災から10年が経ちました。あの日、未曾有の大地震と津波によって破壊された地域に、原発事故が追い打ちをかけ、それでも被災地の方々は故郷を取り戻そうという強い決意を持って、懸命に復興に取り組んでこられました。今、改めて亡くなられた方々に思いを致し、ご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆さまの10年間のご尽力に深い敬意を表したいと思います。

難民を助ける会(AAR Japan)は、震災直後に緊急支援を開始し、その後も中長期的視野に立って、障がい福祉施設を中心とした支援を続けてまいりました。高齢者の方々の孤立させない「地域みんなで元気になるうプロジェクト」、子どもたちに自然の中で活動する機会を提供する「西会津ワクワクこども塾」などの事業は、今日まで継続しています。当会のこうした取り組みは、多くの個人や企業・団体からの温かいご寄付と助成金に支えられて実現したものです。

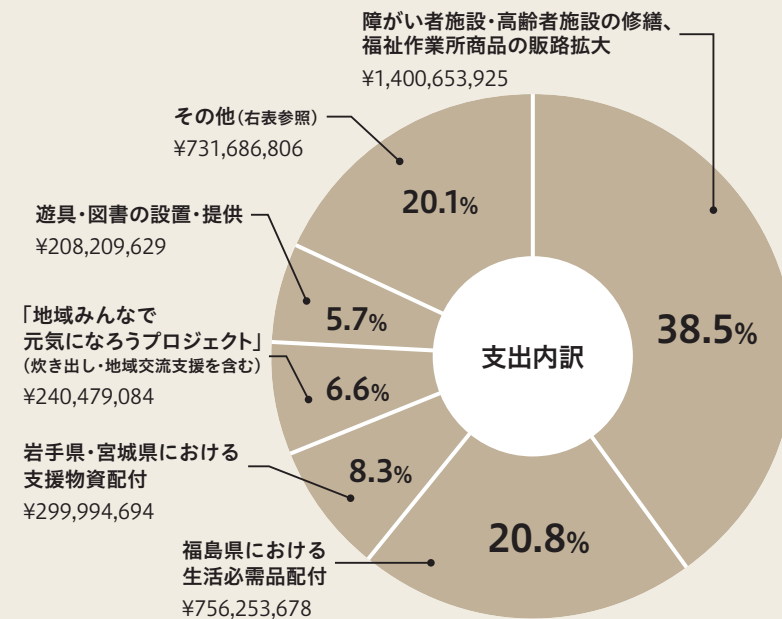
日本国内では近年、地震や台風・豪雨など大規模な自然災害が相次いでいますが、東日本大震災における多くの経験は、被災者の方々や地元行政、関係者の真摯な取り組みの過程で昇華され、防災・減災対策や復興のための貴重な知見として生かされています。被災地の皆さまにとって、当会がわずかばかりでもお役に立てたことは、私たちの大きな誇りです。

世界が新型コロナウイルスという新たな脅威と向き合う今、難民を助ける会は国内外でコロナ対策支援に取り組んでいます。私たちは「困った時はお互い様」の精神を忘れず、今後も東日本大震災の被災地をはじめ、困難に直面する方々に寄り添い、ともに歩んでまいります。皆さまの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

東日本大震災 支援活動会計報告 (2011～2020年度)

収入 合計 37億6,932万9,865円 国内・海外からの寄付および助成金

支出 合計 36億3,727万7,816円



※収支の差額は2021年度以降の被災地支援の予備費に計上されます。

その他に含まれる内容	
医療活動支援	¥132,279,094
車両の提供	¥112,572,907
コンテナハウス・プロジェクト	¥80,912,057
食料の配付(福島県での飲料水配付を含む)	¥59,066,196
放射能測定器の提供	¥55,114,011
被災地見守り活動	¥13,694,638
コミュニティ構築	¥12,240,745
防犯灯の設置	¥11,538,853
通院サービス	¥11,097,103
防災活動支援	¥7,740,686
広域避難者のネットワーク構築	¥3,331,442
被災地地縁団体の活動支援	¥3,870,471
その他の支援活動	¥53,785,427
管理費など	¥174,443,176

支援の輪 全国から世界から

AAR Japanによる東日本大震災の被災地支援にご寄付・助成金、物品提供、イベント協力などのご支援をいただいた日本国内や海外の企業・団体・財団の皆さまをご紹介します。このほか、多数の個人の方々からも温かいご寄付をいただきました。多大なご支援に改めてお礼申し上げます。※原則としてご支援いただいた日付順

寄付・助成金による支援

和の会／株式会社ミルバ／三上電設保安事務所／栗木英語教室の子どもたち／NPO法人ヒューマンズリンク／株式会社同文社／沼田法律事務所／ぐりんらいふ株式会社／ボランティアグループ息吹／特定非営利活動法人レガート花の駅／株式会社正文館書店／株式会社高野／株式会社アシストライト／有限会社みなみケアプラン相談所／有限会社大津紙源／トキ・アートスペース／大阪大学大学院／フクヤ白鳥店／舞鶴東日本大震災被災者支援グループ／株式会社ディアローラ／株式会社ベルシステム／社会福祉法人まいづる福祉会 障害者地域生活支援センターほのぼの屋／株式会社大和／株式会社丸初／有限会社ハイプランニング／株式会社ハイホーム／株式会社ベルステージ／有限会社エクスプロール／糸展事務局／スタジオワモン／目黒遊技場組合／グローバルファンド／あすこクリニック／和彩厨房 KATURA／学校法人のぞみ学園天使幼稚園／全昌院／キモノ工房亀岡／深沢ハウス／ピースチェーンはりま／練馬遊技場組合／光ヶ丘遊技場組合／秀工房／社会福祉法人梅林会うめばやし保育園／JAZZ／ホテルマーレサンムーン／ライブステーション東岸鶴&スタジオ PEP／堀沢医院／アイデス株式会社／日本剪画協会関西支部／泉福寺／つちの会／いたばし野鳥クラブ／聖心女子大学同窓会宮代会／株式会社菅組／株式会社ミリオンインターナショナル／株式会社経営センター／尼崎市立成良中学校／有泉・平塚法律事務所／取手市立宮和田小学校／取手市立藤代中学校／河南胖東来商貿集团公司／かみひとねっとわーく京都事務局／福井県立大学海洋生物資源学部教職員有志一同／目黒そふえ歯科／取手市立野々井中学校／東京第一科学者キリスト教会／株式会社オルタナ／銚子屋油槽船株式会社／いづか男女共同参画推進ネットワーク／正迎寺／森のようちえんどんぐり／平井内科クリニック／ピースプロジェクト／カトリック目黒教会／株式会社コメット／株式会社虎屋／京都聖母学院小学校ボランティア部会／東舞鶴高ウインドアンサンブル／一般社団法人国際電子貢献証明発行協会／谷・阿部特許事務所／有限会社ブライアリー・セレクトショップブーケ／有限会社山昌興産／株式会社自由計画／れんがの街マニック事務局／竹井一郎税理士事務所／株式会社ルコリエ／さとう動物病院／アレグリア／税理士佐藤廣子事務所／新宿眼科画廊／黒川雅之建築設計事務所／医療法人下平けやき診療所／前澤整形外科／妙雲寺／共鳴館／永田町総合法律事務所／横浜国立大学物理学教室同窓会／株式会社バイリンガルグループ／光市ガールスカウト事務局／日本環境保護国際交流会／一般社団法人 Think the Earth／株式会社価値革新機構／石川金網株式会社／ONION AID 実行委員会／株式会社鈴木屋／株式会社スタジオジブリ／本当の福祉をつくるみのお市民グループ／横浜国立大学物理学教室同窓会／株式会社フェリシモ／ゆりの木薬局 目黒店／ふらむはあとリハビリねっと／Heartful Bakery Essen／ウッドイーハウス／ジャズ／ママイクコ／万葉倶楽部株式会社／株式会社アセンディア／ジュリエット・アルファ株式会社／Sonitus／カプラン・ジャパン／キャドック石川／花はしいち／1Color2theWorld／株式会社あなたと健康社／ゴールドマン・サクセス証券株式会社 東京支店／株式会社ブックユニオン やまがたたかはた店／舞鶴支援会／頌栄女子学院／オフィスデヴィスカルノ／桜りん会／街角コンサート実行委員会／みぞえグループ／江戸川双葉幼稚園／株式会社アンデュカンパニー／有限会社トライアンフ／麻沼産業株式会社／山歩塾／株式会社シーマーク／大丸商事株式会社／救援実行委員会／東北関東大震災救援実行委員会／株式会社虎玄 TORAYA CAFE／株式会社フレクシェ／株式会社阿部鐵工所／株式会社一柳みどり編集室／山田哲夫税理士事務所／邦建設株式会社／有限会社装美衣裳センター／オリーブ／よしだ洋裁／北村矯正小児歯科／浜松クリスチャン・コワイア／株式会社シェリエ／結城商事株式会社／有限会社トラスト／善預代伝／野上歌謡教室／Natural Healing House／スプラウト／株式会社ケイポートドラッグマート／学校法人千葉明德学園 明徳本八幡駅保育園／カープス都立大学／株式会社音生力／特定非営利活動法人ジャパン・プラット

フォーム／有限会社ザ・テラダファーム／男女共同参画推進ネットワークぼろんて21桂川／有限会社神奈川芸術協会／D.V.D. 有限会社／さくらまつり実行委員会／取手英会話スクール／神戸海星女子学院中学・高等学校社会奉仕グループ／東京都中野区立中野神明小学校／タキ・オフィス／桜友会／ルセルネッキングサロン／XUXU／サバトス／ヘルブライン松江／学習院女子中・高等部／学習院女子大学／岸本病院／博愛チャリティーゴルフ／大正堂薬局品川店／中野遊技場組合／有限会社マーレンカ／Kクリエイト／有限会社ピーエヌジージャパン／有限会社オフィス・エム・ケイ／株式会社マイク／ライブハウス PAPAJAM／株式会社ケーズブレイン／アドシステム株式会社／七輪焼 岩松谷／安養寺「にんげん」の会／アイリス／みどりの部屋／株式会社メルローズ／ソフトバンク株式会社／株式会社ダウンゴ／三井物産株式会社／株式会社東京交通会館／株式会社メタルエッグ／地中海レストランソレイユ／メイブルレーン／株式会社阪神技術研究所／アナブルヴェル／奈良女子大学文学部付属中学 S46年・高校 S49年卒同窓会／はりきゅう花猫治療室／えとクリニック／失速ライブ／公益財団法人住友財団／翔凨中学校・高等学校／SKIP(スキップ)／パウダー／メトセラポロロッカ・アウタナ／ゆいまーる／香りの雫／ペイパルジャパン株式会社／福山天教会／扇橋 杏丁目青年部／公益財団法人イオンワンパーセントクラブ／株式会社パンカーダ／株式会社ワイエムティ／特定非営利活動法人ユーラシア21／市川二俣郵便局／浪江書店／郷商事株式会社／HOPE FOR JAPAN／宗教法人霊友会／株式会社アルーシャ／大崎八幡宮／株式会社 LIFULL Social Funding／ライブステーション東舞鶴店&スタジオ PEP／ビクター木村音楽事務所／公益財団法人母と学生の会千葉支部／アロマサークル美人／SFS Team Japan／銀河グループ／三菱商事株式会社／イオンモール株式会社／舞鶴動物医療センター／株式会社 KON'STONE／株式会社小西美術工藝社／株式会社リバーリアルミートーヨー住器／株式会社ヒロ／キッズミュージカルファクトリー／キャンノマーケティングジャパン株式会社／株式会社 Zenpro／福岡朝鮮初級学校／株式会社イオンフォレスト／CREPE HOUSE cuore／プレ ナチュレ／王さまのパン／SATO 社会保険労務士法人／スタイルエフ／株式会社ライフキャッチ／夢葉房 みやした／緑ヶ丘女子中学校・高等学校／京都光華中学校・高等学校／太陽村／NPO ともしび会／株式会社ローランド・ベルガー／パンピンググループ／南林間接骨院／駒沢女子大学人文学部国際文化学科／新日本有限責任監査法人／三谷産業株式会社／日本文理学院高等部／川崎南口ロークラブ／いわせ国際交流友の会／川西フーズサービス株式会社／美容室エクリュ／NTT ビジネスアソシエ東日本／日本キリスト教団桃山教会／Olive2／畑歯科／財団法人農民教育協会鯉淵学園農業栄養専門学校／白梅学園大学軽音楽部／学校法人武蔵野学園むさしの学園小学校／高松兵庫町商店街振興組合／獨協中学高等学校／聖フランシスコ学園天使幼稚園／舞鶴倶楽部／遠州教会バザー委員会／あびこひかりこども園／聖心女子大学／UBS証券株式会社／アクセンチュア株式会社／デロイトトーマツ税理士法人／聖カタリナ学園高等学校／カーライフ山崎／株式会社良品計画／玄海みらい学園／広島女学院中学高等学校／ソニー株式会社／森部経営労務管理事務所／株式会社都田建設／学校法人明治学院／ギャラリーサンムーン／東日本大震災救援実行委員会／西山学院高等学校／カサブランカ・エグゼクティブ倶楽部／株式会社アチーブメント／ゆうキャンパスチャリティーコンサート／アロマテラピー & トータルケアサロン ANGELIQUE／社会福祉法人さばうと21／京都府女性の船ステップあけぼの舞鶴支部／ミュゼ株式会社／株式会社農業法人ふるる／一般社団法人 i-kifu／南舞鶴女性の会／日土婦人友好文化協会イスタンブール支部／パークレイズ証券／国際 IC よつ葉会／健仲幼稚園華道部／東京第四友の会／トアボルツ株式会社／久米繊維工業株式会社／公益財団法人野村生涯教育センター／東京美術倶楽部／サンキョー株式会社／鼓童／日本航空高等学校太鼓隊／女川潮騒太鼓轟会／株式会社リコー／マリ企画／シエルセラニ合同会社／京橋文具事務用品組合／株式会社東栄科学産業／特定非営利活動法人東京コミュニティカレッジ／びいどろ／舞鶴市民新聞社／五井

平和財団／学校法人駿台学園／パワーフォージャパン「3.11の会」／横浜シンフォニエッタ／念法眞教／吉田様、高井様の会／ネットワンシステムズ株式会社／ペーカリーチャリー／プルデンシャル生命保険株式会社／札幌聖心女子学院社会福祉委員会／大島新生幼稚園／女子学院中学高等学校／あいおいニッセイ同和損害保険株式会社／マックスバリュ西日本株式会社／佐世保市立福石中学校／スタジオフォトプラス／日本オラル株式会社／楠葉生涯学習市民センター／コムサデモード／ローラ アシュレイ ジャパン株式会社／イオンデライト株式会社／イオントップバリュ株式会社／青二祭本部事務局／ウエルシアホールディングス株式会社／株式会社 CFS コーポレーション／イオンクレジットサービス株式会社／ハワイ島福島県人会／キックーマン株式会社／戸板女子高等学校生徒会／駒場東邦中学校・高等学校／株式会社 Nalelu／善隣院保育センターゆり組／カフェ Jazz／小百合幼稚園／パルシステム東京西新井委員会／医療法人鶴林会 互助会／ペーカリーみゆうみゆう／宗教法人天徳寺／株式会社グリアス／愛眼株式会社(東舞鶴店)／株式会社イオンファンタジー 人事総務 G／リフォームスタジオ株式会社／株式会社メガスポーツ／マックスバリュ北海道株式会社／マックスバリュ九州株式会社／株式会社未来屋書店／イオンフードサプライ株式会社／イオン保険サービス株式会社／株式会社ジーフット／オリジン東秀株式会社／株式会社サンデー／株式会社光洋／マックスバリュ中部株式会社／イオンリテール株式会社／株式会社ツヴァイ総務部／イオン九州株式会社／マックスバリュ東海株式会社／イオン北海道株式会社／イオンエンターテイメント株式会社／ヒロタ薬局野村店／株式会社テムジン／プール学院大学／公益社団法人日本フィランソロピー協会／有限責任あずさ監査法人／株式会社ヴァリューワールド／舞鶴市立青葉中学校／舞鶴コムサイズム／民謡人震災復興支援有志の会／ドイツ語婦人会／日本ロレックス株式会社／教育支援チーム「まつ」／宮内庁記者会／久留米大学附設高校／セレクトショップ美らくる1・2・3／杉並区立三谷小学校／三好内外国特許事務所／株式会社ユー・花園／味の素株式会社／小林聖心女子学院／株式会社彩鳳堂企画／有限会社ヌーベル・シノワ／株式会社大塚商会／株式会社山野楽器／関東学院六浦中学校・高等学校／ファースト・パシフィック・キャピタル有限会社／四季の緑日実行委員会／中外製薬株式会社／株式会社日立プラントコンストラクション／株式会社ジェーシービー／清泉女子大学／株式会社日立ドキュメントソリューションズ／株式会社日立システムズ／三菱電機株式会社／株式会社東芝／イオン株式会社／株式会社日立製作所／大阪電気通信大学高校／リコー・ジャパン株式会社／NECソリューションイノベータ株式会社／飯能市立八幡保育所／バプテスト東福岡教会

物品提供による支援

株式会社高野／有限会社ピーエスサイクル／特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング／有限会社ブライアリー・セレクトショップブーケ／山辻医院／有限会社正木屋／公益財団法人 パブリックリソース財団／アネージアアジアパシフィック／株式会社ミリオンインターナショナル／日本テトラバック株式会社／花王株式会社／日本アムウェイ合同会社／森永乳業株式会社／株式会社サンリオ／特定非営利活動法人日本マザーズ協会／株式会社三和化学研究所／株式会社サンマップ／生活協同組合 パルシステム東京／株式会社イングラム／株式会社ドール／かしましグローバル／株式会社資生堂／ソフトバンク株式会社／山田照明株式会社／株式会社ナップバーム／デルタ航空会社／HK Mamas with Love／株式会社虎屋／スボルディング・ジャパン株式会社／株式会社レイメイ藤井／タキヒョー株式会社／平野株式会社／堀越ネクタイ株式会社／株式会社レナウン／市民活動団体 YADD 宮崎／ギャレックス株式会社／上尾工業株式会社／株式会社ギャレット／株式会社ナイガイ・イム／株式会社ブリヂストン／有機農園ファーマイン株式会社／株式会社嵯峨造園土木／エイボンプロダクツ株式会社／有機農園ファーマイン株式会社／船昌商事株式会社／株式会社ボネール／日清紡ホールディングス株式会社／株式会社良品計画／株式会社ジェイ・ストーム／イー・モバイル／ヘインズブランズ ジャパン株式会社／株式会社カクエイ／株式会社トウ・キュービー／National Medical Clinic／株式会社モンベル／パナソニック株式会社／株式会社エコ・プロジェクト／ワールドエコプロジェクト株式会社／株式会社フクヨシ／NPO 法人「飛んで！車いす」の会／株式会社ロハスコミュニケーションズ／財団法人自治体国際化協会市民国際プラザ／財団法人自治体国際化協会／東京レコードマネジメント株式会社／イケア・ジャパン株式会社／首都高速道路サービス株式会社／KDDI 株式会社／株式会社ゴールドウイン／リンガフランカ株式会社／カシオ計算機株式会社／ネイ

バーズ／ウォルトディズニー・ジャパン株式会社／よしだ洋裁／株式会社サンマップ／株式会社ダスキン藤沢／株式会社ホンダカーズ横浜藤沢湘南台店／常盤平幼稚園 P. T. A.／JSピア-住まいの工房-／キルトショップ YUNO／株式会社ティラミス／かえる洋裁店／マリンシニアクラブ／子ぶたの会／アキオデザインルーム／有限会社安達ドレス／社会福祉法人かいゆうたまりば「宙」／フラワーサークル／株式会社タニ／エスモード・ジャパン／東京都立六本木高等学校／クロスリボン／ロミーズパッチワークスクール／「なかよしキルト」／よしだ洋裁／株式会社徳弘工務店／サザンクロス／福島県立安達高校／キャンベルジャパン株式会社／山本第三病院／伊奈東中学校／ユースキン製菓株式会社／光市ガールスカウト事務局／東日本大震災 ICT 支援応援隊事務局／株式会社 IJ グローバルソリューションズ／株式会社ティエフケー／富士ゼロックス株式会社／六花亭製菓株式会社／株式会社 Nalelu／東京藝術大学／東洋熱工業株式会社／獨協大学／株式会社ハーバー研究所／立教女学院中学校／ルーテル教会救援／かねおと布団店／社会福祉法人梅林会うめばやし保育園／沼田法律事務所／東京海上日動火災保険株式会社／神川町立神川中学校／株式会社電通／有限会社ライフライブラリー／医療法人社団良俊会／スタイリングインターナショナル／株式会社タオル美術館／高松兵庫町商店街振興組合／佐志中学校生徒会／ローラアシュレイ ジャパン株式会社／株式会社しんあいコーポレーション／UBS証券株式会社／株式会社オレンジページ／前原製粉株式会社／株式会社サン・アロー／郵船不動産株式会社／赤門会日本語学校／リサイクル・リラ／医療法人英会いとうレディースクリニック／キモノ工房亀岡／広友リース株式会社／聖心会ソフィア修道院／株式会社アイ・シー／協明紙器株式会社／中根保株式会社／損害保険ジャパン日本興亜株式会社／カルビー株式会社／社会福祉法人中央共同募金会／福岡 YWCA／カトリック千代田教会／ネットワンシステムズ株式会社／株式会社セールスフォース・ドットコム／キックーマン株式会社／プルデンシャル生命保険株式会社／陽春館／株式会社バジコ／株式会社伊吹電子

海外からの支援

Direct Relief International(米国)／International Rescue Committee(米国)／Global Giving Foundation(米国)／CARITAS GERMANY(ドイツ)／Japan NGO Earthquake Relief and Recovery Fund(米国)／Global Giving UK(イギリス)／Houston Playdate Club(米国)／action medeor e.V.(ドイツ)／World Jewish Relief(イギリス)／Bulk Medicines Pharmaceuticals(ドイツ)／上海耀中国際学校(中国)／包玉剛実験学校(中国)／Bright Start Acdaemy(中国)／University of Delaware, Bartol Research Institute(米国)／Big Red Sun Benefit(米国)／Give 2 Asia(米国)／Relief International(米国)／DBM Family Foundation(米 国)／Deutsch-Japanische Kulturgesellschaft Aachen e.V.(ドイツ)／United World College of South East Asia(シンガポール)／AGAPE International Spiritual Center(米国)／互人多(中国)／仁恒河浜花園(中国)／P.T.TAIKISHA INDONESIA ENGINEERING(インドネシア)／Arthritis Foundation(米国)／Compassionate SVC Society ITC(米国)／American Jewish Joint Distribution Committee(米国)／Americares Foundation Inc(米国)／Grateful Crane Ensemble(米国)／Nikita J Frenney(米国)／Stiftung JT International(スイス)／Association Ethnomusika Maison Des Associations(フランス)／School Foundation of NIT(カナダ)／Rajdhani Mandir,INC.(米国)／Computer Associates MCGP(米国)／ROLEX SA(スイス)／Japanese Cultural + Community Center of Northern California(米国)／Japanese Senior Center(米国)／Islamic Relief E.V.(ドイツ)／International Medical Corps(米国)／Ponteland High School(イギリス)／Theater Ticino(スイス)／Japanisches Musik Forum Zürich(スイス)／Qatar Friendship Fund(カタール)／Diakonie Katastrophenhilfe(ドイツ)／JCCNC (Japanese Cultural and Community Center of Northern California)(米国)／AEON Co. (M) BHD.(マレーシア)／Caritas Diocese Bozen-Brixen(イタリア)／CA Technologies Matching Gifts Program(米国)／École Elementaire Vertus(フランス)／Forderverein der Musikhochschule Aachen(ドイツ)／Freedom of Mobility Foundation, Inc.(米国)／The Jain Center of Southern California(米国)／Mahayogi Yoga Mission (米国)／Subaru UK(イギリス)／University of Dundee, UNESCO Centre for Water Law, Policy and Science(イギリス)／Vishwa Hindu Parishad of America(米国)／Jewish Federation of North America(米国)